



米川浄水場

東和町米川地区に給水する米川浄水場

米川浄水場は敷地内の井戸から汲み上げる地下水を原水として、水質が安定しているためろ過処理ではなく、塩素や紫外線処理装置による滅菌処理で水を作っています。ここで滅菌した水は若草山の配水池に送られPH(水素イオン濃度)調整を行ってから給水されます。



米川浄水場データ	
給水開始	昭和47年3月
水源	北上川水系二股川(地下水)
取水・導水方式	浅井戸・取水ポンプ
浄水処理方式	塩素滅菌・紫外線・脱炭酸処理
施設能力	1,440m ³ /日
敷地面積	505m ²

錦織浄水場

東和町錦織地区と米谷地区の一部に給水する錦織浄水場

錦織浄水場は大関川の伏流水を原水としています。ここでは水中の汚れなどをろ過膜で除去して水を作る、膜ろ過方式の浄水処理を行っています。浄水場の上流約1kmにある三滝堂は清流に親しむ市民に人気の公園で夏は大勢の人でにぎわいます。



錦織浄水場データ	
給水開始	昭和32年4月
水源	北上川水系大関川(伏流水)
取水・導水方式	浅井戸・取水ポンプ
浄水処理方式	薬品沈殿・膜ろ過、塩素滅菌
施設能力	810m ³ /日
敷地面積	388m ²

米谷浄水場

東和町米谷地区に給水する米谷浄水場

錦織浄水場と道を挟んで向かい合う米谷浄水場は、敷地内の井戸から汲み上げる地下水を原水としています。米川浄水場と同じく原水の水質が安定しているためろ過処理ではなく、塩素や紫外線処理装置による滅菌処理方式です。



米谷浄水場データ	
給水開始	昭和55年3月
水源	北上川水系大関川(地下水)
取水・導水方式	浅井戸・取水ポンプ
浄水処理方式	塩素滅菌・紫外線処理
施設能力	1,220m ³ /日
敷地面積	861m ²

楼台浄水場

東和町楼台地区に給水する楼台浄水場

楼台浄水場は敷地内の井戸から汲み上げる地下水を原水としています。ここでは原水の水質が安定しているため凝集剤と滅菌剤を注入した後、沈殿させることなくろ過するマイクロブロック方式の浄水処理を行っています。



楼台浄水場データ	
給水開始	平成12年4月
水源	北上川水系恩田川(地下水)
取水・導水方式	浅井戸・取水ポンプ
浄水処理方式	ろ過タンク方式・塩素滅菌
施設能力	110m ³ /日
敷地面積	332m ²

合ノ木浄水場

東和町合ノ木地区に給水する合ノ木浄水場

合ノ木浄水場は合ノ木川の表流水を原水とし、水中の汚れ等をろ過膜で除去して水を作る膜ろ過処理を行っています。膜ろ過方式は、これまでの砂ろ過方式より面積が小さくて済むため、コンパクトな施設となっています。



合ノ木浄水場データ	
給水開始	平成17年4月
水源	北上川水系合ノ木川(表流水)
取水・導水方式	取水堰・自然流下
浄水処理方式	膜ろ過・塩素滅菌
施設能力	8m ³ /日
敷地面積	100m ²

大綱木浄水場

東和町大綱木地区に給水する大綱木浄水場

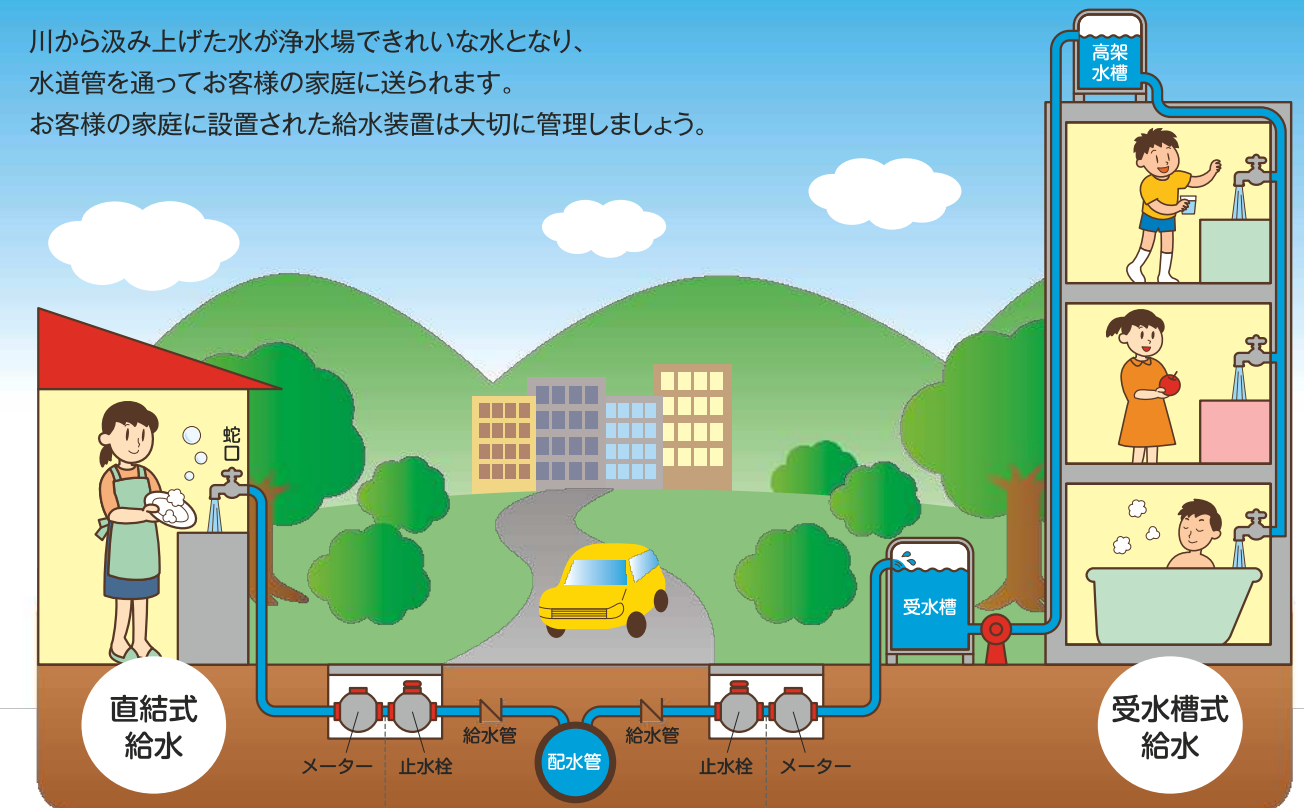
大綱木浄水場は上鱒淵川の表流水を原水としています。合ノ木浄水場と同じく取水施設から高低差を利用して取水し、膜ろ過を使った浄水処理を行っています。平成26年度に合ノ木浄水場とともに地区での管理から登米市水道事業へ統合されました。



大綱木浄水場データ	
給水開始	平成17年4月
水源	北上川水系上鱒淵川(表流水)
取水・導水方式	取水堰・自然流下
浄水処理方式	膜ろ過・塩素滅菌
施設能力	10m ³ /日
敷地面積	100m ²

給水装置のしくみと費用負担は このようになっています。

川から汲み上げた水が浄水場できれいな水となり、水道管を通ってお客様の家庭に送られます。お客様の家庭に設置された給水装置は大切に管理しましょう。



維持管理	お客様	お客様または登米市	お客様
工事費負担	1	お客様(原因者)	
	2	登米市	
修理等の依頼先	指定工事事業者	登米市	指定工事事業者

1お客様(原因者)が負担する工事費

- 新築、増築や老朽などお客様の都合で給水管の入れ替えや移設する工事(メーター器の移設費も含む)
- 水道管やメーター器・メーターBOX・止水栓を破損させた場合の工事
- メーター器下流側で発生した給水管の漏水修理工事
- その他お客様の都合による給水装置工事

2登米市が負担する工事費

- 配水管改良工事に伴う給水管の接続工事
- メーター検針に支障となるメーター器の位置改良工事
- メーター器上流側で発生した給水管の漏水修理工事(破損以外)

水道事業の財政としくみ ～水道事業は独立採算制～

私たちの水道事業は、市民などの税金によるものではなく、みなさんからいただいた水道料金ですべてをまかなうというしくみです。みなさんご家庭に安全で安定的に水をお届けするためには、施設の整備、改良を行わなければなりません。このような建設資金は、そのほとんどが国や銀行からの借入金でまかなわれています。そして、この借入金と利子を水道料金の中から返済するというのが今の水道財政のしくみです。

